第５章　　プロジェクトの評価と提言

第5章 プロジェクトの評価と提言

5-1 妥当性にかかる実証・検証及び裨益効果

5-1-1 妥当性にかかる実証・検証

本計画の裨益対象はビシュケク市民であり、対象人口はおよそ百万人である。本計画の実施により各対象病院の機材が整備され、救急医療の診療機能が回復し、救急センターにおいて装備された救急車が効果的、効率的に運用されれば、ビシュケク市における救急医療サービス機能が回復し、市民の健康維持・安全確保に寄与し、「キ」国の保健医療指標の改善に効果を発揮するものである。

本計画は対象施設の救急車を含めた現有機材の更新を図ることを主としていることから、調達される機材の使用方法及び維持管理上の技術的問題はない。保守サービスなどを要する機材は「キ」国或いは周辺国にサービス基地を持つ機材を調達することにより、機材の維持管理について民間業者の協力が可能であることが確認されたことなどから我が国の無償資金協力で実施することが妥当であると判断される。

5-1-2 裨益効果

本計画が実施された場合に期待される効果としては、次の諸点が考えられる。

(1) ビシュケク市救急センター

1) 救急車の調達によりビシュケク市救急センターにおいて調達後5年間は老朽化が進み廃車される救急車と、体制の変化に合わせて削減される医療チームの数に合わせて、活動に支障の生じない必要最小限の救急車が確保できるようになる。さらに救急車の最小限必要台数の確保は現場への遅延到着回数の減少に有効である。

2) 救急通信設備の更新によりビシュケク市救急センターにおいて現在6台のうち2台故障している老朽化した市民からの緊急電話受付台の更新による性能向上により、救急センターの緊急電話受付能力が増加（復活）する。（1993 年には 171,494 回あったものが 1997 年 146,882 回にまで減少していた。）処置例検索用コンピューターの導入により、患者の医療情報が蓄積され、救急車の出動要請に的確な対応（派遣する医療チームの的確な選出、電話による適切な指示等での不必要な出動の回避等）ができるとともに適切な事前準備が可能になるなど医療チームの処置能力の向上が期待できる。装備された救急車と通信設備の整備により、迅速且つ効率的な救急車の出動と適切な医療処置及び病院への搬送が可能になり、救急医療機能の改善が可能になる。

(2) ビシュケク市救急センター、国立外科センター、共和国感染症病院、市立第3小児病院、市立第2産婦人科病院、市立第4産婦人科病院

1) 基礎機材の整備により、患者のヴァイタルサイン（生体基礎情報）の的確な把握が出来、適切な医療処置を可能にする。

2) 蘇生器、除細動装置、救命治療器具等の整備により、緊急状態にある患者の救命機能の改善が可能である。

3) 超音波診断装置、心電計、内視鏡等診断系の機材整備により、救急患者の疾病状況

診断が適切且つ迅速に行われ、適切な治療を可能にする。

4) 血液ガス分析装置、電解質分析装置、血球計数器など臨床検査部門の機材整備により患者の疾病診断が臨床データ面から的確且つ迅速に行われ、救急患者に対する的確な治療を可能にする。

5) 手術台、麻酔機、無影灯などの手術室の機材及び患者監視装置等、集中治療室機材の整備を図り、救急患者の安全な手術及び手術後の予後監視など、救急患者に対する適切な治療及び監視を可能にする。

6) 胎児監視装置、吸引器等産科・分娩室の機材整備により、母胎及び胎児の適切な監視及び安全な分娩介護を可能にし、出産期の母子の死亡率などを低下させる。

7) 新生児監視装置、保育器など新生児、乳児などの診療部門の機材を整備し、新生児及び疾病を持つ乳児の適切な観察、治療を可能にする。

8) 対象病院はその専門分野における第3次救急医療機関であることから、上記の改善により、ビシュケク市の救急医療機能は大幅に改善され、市民の救急医療に対する信頼の回復に有効である。

5-2 技術協力・他のドナーとの関係

本計画で調達が予定されている機材は、その殆どが既存機材の更新・補充であり、技術的には現在の医療従事者の技術レベルで十分対応可能なものである。またX線装置、超音波診断装置、患者モニターなど更新される機材で操作方法等に変化が見られるものについても、調達時に「キ」国側医療従事者を訓練することで十分対応ができ、日本側による技術協力は必要がないと判断される。一方、医療機材の保守・維持管理に関わる組織の構成や責任体制、修理歴記録システムなどの維持管理システムについては現地民間企業のメデイ・テクニカにより対応がなされている。本プロジェクトで調達される機材のなかには、保守のために新しい技術が必要となる機材や日本製品も含まれるが、すでに'95 年度に国立小児病院に対する我が国の無償資金協力プロジェクトにおいて調達された機材に対する対応を見ても、調達時に十分な訓練をする事で問題は生じないと判断される。

他方、「キ」国に対しては ADB,WB,WHO 等の国際機関やスイスその他のドナー国により様々な援助が行われているが、それぞれ分野を限定しており、本計画は機材計画、実施工程等において他の援助機関との連携、重複はない。但し、英国のノウハウプロジェクトにおいて、医療サービスシステム改革等ソフトの面での具体的な提案が行われているが、ハード面での本計画はその方向性との整合を図りながら進めているので問題は生じない。

5-3 課題

本プロジェクトは既述のように多大な効果が期待されると共に、ビシュケク市民のBHN 向上に寄与するものであることから、本計画実施の意義は大きいと判断できる。さらに、本計画の運営、管理についても「キ」国側体制は人員・資金ともに問題はない

と考えられる。しかし、本計画を円滑かつより効果的に実施するためには、以下の点を改善・整備する必要がある。

(1) 維持管理体制の確立

1) 施設毎の維持管理体制整備

各対象施設毎に保守担当技術者を配備し、日常の点検に加え、外部の委託先も含めた修理システムを整備するなど、維持管理体制の確立が望まれる。

2) 保守サービス契約予算

本計画で調達が予定されている機材には機材運営費、維持管理費などを必要とするものも含まれている。また、一部の機材には、製造者と保守サービス契約による保守点検が必要となるものがある。機材をより永く良好な状態で使用するために、これら保守サービス契約に必要な予算の確保が必要である。

(2) 救急医療体制の整備

本計画は、救急車を含め各対象施設が直面している診療・診断機能の低下などの問題を救急機能を中心に機材を調達する事によりハードの面での解決を目指すものである。しかし、「キ」国が「マナス保健計画」によって進めている保健医療体制の抜本的な改革の方針に沿って救急医療体制の整備を行うには、機材の整備のみならず様々な面からの整備が重要である。本計画の実施にあたり、「キ」国において進められるべき以下の整備対策の実施を提案する。

1) 一次救急医療体制の整備

・現在、救急センターの医療チームが担っている慢性疾患患者に対する在宅医療を、総合外来病院（ポリクリニック）における家庭医グループ（FGPs）の活動をより充実させ肩代わりさせる。その為に、医師の再教育面において、家庭医教育を充実させる。

・現在進めている総合外来病院における地域住民に対する啓蒙活動・広報活動をより積極的に行い、効率的な救急車活動の促進を図る。

・総合外来病院に時間外診療部門を設置し、平日の夜間診療・休日診療をおこない、一次救急医療機能を全面的に担わせる。

・社会保険制度の導入と医療の有料化を加速させ、診療報酬制度を明確にし、医業従事者の待遇改善を行い、モラルを高め、医療サービスの質の向上を図る。

2) 効率的な二次・三次救急医療体制の構築

・現在のビシュケク市における救急医療体制は既述のごとく救急指定病院が 14 施設以上に細分化され過ぎていて、効率的・合理的運営に適した体制とはいえない状況である。マナス保健計画にあるように、ホームドクター制度が定着し、一次救急医療体制が整備されるに従って、ビシュケク市内の市立病院も地方の州立病院と同じ様に総合病院化され、総合的な二次救急医療を担うことを検討される必要がある。

・三次救急医療についても同様に、救命救急センターとして高度な総合力が求められる。従って、高度に専門分化された国立病院・研究所とは別に、少数の救命救急センターによる合理的・効率的な三次救急医療体制が構築される必要がある。

資　料

資　　料

1. 基本設計調査
   (1) 調査団の構成
   (2) 現地調査日程
   (3) 相手国関係者リスト

2. 基本設計概要説明調査
   (1) 調査団の構成
   (2) 現地調査日程
   (3) 相手国関係者リスト

3. 当該国の社会・経済事情
4. その他
   (1) 据付機材レイアウト

１．　基本設計調査

1. 基本設計調査（平成10年9月16日～10月20日）

(1) 調査団の構成

調査団の氏名、所属

氏　名	担当分野	所　属
松葉　剛	団長・総括	厚生省国立国際医療センター
藤田　典正	計画管理	国際協力事業団無償資金協力調査部
中島　護	業務主任/ 運営維持管理計画	株式会社　日本ﾍﾙｽｹｱｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ
鈴木　誠	機材計画（I）	株式会社　日本ﾍﾙｽｹｱｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ
村尾　耕一	機材計画（II）	株式会社　日本ﾍﾙｽｹｱｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ （9月16日～10月10日）
礒部　剛久	設備計画	株式会社　日本設計 （10月4～10月18日）
安田　隆文	調達計画/積算	株式会社　日本設計 （10月4～10月18日）
橋　盛彦	通訳（露語）	株式会社　日本ﾍﾙｽｹｱｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ （9月16～10月18日）
石川　修三	設備計画	株式会社　日本設計 （9月18日～9月25日）

(2) 現地調査日程

月　　日	調 査 日 程
9月　16日（水）	・官団員、コンサル団員成田発→フランクフルト着（JL 407）
17日（木）	・フランクフルト発→アルマティ着（LH 3346）
18日（金）	・在カザフスタン日本大使館を表敬、打ち合わせ ・アルマティ発→ビシュケク着（車による移動） ・キルギス国保健大臣表敬 ・保健省、対象施設、WHO、世銀打ち合わせ ・ビシュケク市救急センター視察 ・コンサル団員（1名）イスラマバード発→アルマティ着
19日（土）	・国立外科センター視察 ・共和国感染症病院視察 ・コンサル団員（1名）アルマティ発→ビシュケク着（車による移動）
20日（日）	・市立第3小児病院視察
21日（月）	・国立小児病院視察 ・市立第2産婦人科病院視察 ・市立第4産婦人科病院視察
22日（火）	・ワークショップ ・外国投資経済援助委員会表敬
23日（水）	・ビシュケク市救急センター機材打ち合わせ ・国立外科センター機材打ち合わせ ・共和国感染症病院機材打ち合わせ
24日（木）	・市立第3小児病院機材打ち合わせ ・市立第2産婦人科病院機材打ち合わせ ・市立第4産婦人科病院機材打ち合わせ
25日（金）	・ミニッツ協議
26日（土）	・資料整理
27日（日）	・資料整理
28日（月）	・ミニッツ署名 ・官団員ビシュケク発→アルマティ着（車による移動） ・日本大使館にて現地調査結果中間報告 ・コンサル団員継続調査スケジュール打ち合わせ（保健省）
29日（火）	・官団員アルマティ発→フランクフルト着（LH 3325）→成田（LH 710） ・保健省、世銀打ち合わせ ・市立第2産婦人科病院機材打ち合わせ ・市立第4産婦人科病院機材打ち合わせ
30日（水）	・官団員成田着 ・WHO打ち合わせ ・市立第3小児病院機材打ち合わせ
10月 01日（木）	・国立外科センター機材打ち合わせ ・共和国感染症病院機材打ち合わせ
02日（金）	・Know-how Project チームとの打ち合わせ ・市立第4病院視察
03日（土）	・ビシュケク市救急センター救急車調査
04日（日）	・資料整理 ・コンサル団員（2名）成田発→フランクフルト（JL 407）

05日（月）	・世銀打ち合わせ ・国立外科センター機材打ち合わせ ・市立第4産婦人科病院機材打ち合わせ ・コンサル団員（2名）フランクフルト発→アルマティ着（LH 3346）
06日（火）	・市立第2産婦人科機材打ち合わせ ・市立第3小児病院現有機材調査、建築・設備調査 ・コンサル団員（2名）アルマティ発→ビシュケク着（車による移動）
07日（水）	・WHO打ち合わせ ・共和国感染症病院現有機材調査、建築・設備調査 ・国立外科センター現有機材調査、建築・機材調査
08日（木）	・ビシュケク市救急センター機材打ち合わせ ・市立第3小児病院現有機材調査、建築・設備調査 ・コンサル団員（1名）ビシュケク発→アルマティ着（車による移動）
09日（金）	・公衆衛生局打ち合わせ ・国立外科センター現有機材調査 ・市立第4産婦人科病院現有機材調査、建築・設備調査 ・市立第2産婦人科病院建築・設備調査 ・コンサル団員（1名）ｱﾙﾏﾃｨ発→ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ（LH 3325）→成田（LH 710）
10日（土）	・ビシュケク市救急センター機材打ち合わせ ・第3国機材調査 ・コンサル団員（1名）成田着
11日（日）	・資料整理
12日（月）	・保健省打ち合わせ ・ビシュケク市救急センター設備打ち合わせ ・ビシュケク市保険局建築・設備打ち合わせ ・第3国機材調査
13日（火）	・保健省、世銀、公衆衛生局打ち合わせ ・ビシュケク市救急センター救急車調査 ・市立第4産婦人科病院機材打ち合わせ
14日（水）	・キルギスメディテクニカ（機材保守管理会社）打ち合わせ ・保健省にてTechnical Memorandum 協議、PDM協議 ・外国投資経済援助委員会にてTechnical Memorandum 協議
15日（木）	・キルギスメディテクニカ（機材保守管理会社）視察 ・保健省にてPDM協議 ・外国投資経済援助委員会にてTechnical Memorandum 署名
16日（金）	・コンサル団員（5名）ビシュケク発→アルマティ着（車による移動） ・日本大使館にて継続現地調査結果中間報告
17日（土）	・コンサル団員アルマティ→フランクフルト（LH 3325） ・コンサル団員（2名）フランクフルトにて第3国機材調査 ・コンサル団員（3名）フランクフルト発→成田（LH 710）
18日（日）	・コンサル団員（3名）成田着 ・コンサル団員（2名）資料整理（フランクフルト）
19日（月）	・コンサル団員（2名）フランクフルト発→成田（LH 710）
20日（火）	・コンサル団員（２名）成田着

(3) 相手国関係者リスト

〔1〕キルギス国政府関係者

〔外国投資経済援助委員会（ｺﾞｽｺﾑｲﾝﾍﾞｽﾄ）〕

Mr. URKALY T. ISAEV	長　官
Mr. URAN T. ABDYNASYROV	副長官

〔保　健　省〕

Dr. N. KASIEV	大　臣
Dr. AALIEV gG. R.	次　官
Dr. K. MAMBETOV	医療予防局長
Dr. R. JAKYPOVA	医療予防担当課長

〔大　蔵　省〕

Ms. A. OUKTAMKHAN	大蔵省第1次官

〔ビシュケク市保健局〕

Ms. I. N. MELJNICHUK	ビシュケク市保健局長
Dr. A. SADYGALIEV	保健局長補佐

〔ビシュケク市救急センター〕

Dr. V. BELOV	センター長
Dr. K. ABDYLDAEV	副センター長
Dr. B. ARALBAEVA	第3サブセンター長
Mr. SIVKO	通信技師

〔国立外科センター〕

Dr. M. M. MAMABEEV	センター長
Dr. K. M. MAMAKEEV	病院長
Dr. KALJIKEEV A. A.	副院長
Dr. I. T. BEKTUROV	研究部長
Dr. OMURZAKOV M. B.	マネージャー

〔共和国感染症病院〕

Dr. N. MURATOVA	院　長
Dr. H. SARKINA	副院長

〔市立第3小児病院〕

Dr. H. CHERNYSHOVA	副院長

〔市立第2産婦人科病院〕

Dr. ALYBAEV A. A.	院　長
Dr. T. KOZLOVA	副院長
Dr. K. LEE	産科部長

【 市立第4産婦人科病院】

Dr. G. KACHKINTAEVA	院　長
Dr. N. VOICHENKO	副院長

【 国立小児病院】

Dr. K. A. UZAKBAEV	院　長

【 国立第1病院=総合外来病院+入院病院】

Dr. Z. T. TOKOGONOVA	院　長

【 市立第6病院】

Dr. A. C. USUPBAEV	院　長

【 第9総合外来病院】

Dr. A. A. ASANBEKOVA	院　長

【 世界保健機構キルギス事務所】

Dr. O. MOLDOKULOV	副所長
Dr. A. IMANBAEV	WHOキルギス事務所専任役員
Dr. M. BOZGUNCHIEV	WHOインフォメーションセンター長

【 世界銀行ビシュケク本部】

Dr. T. MEIMAMALIEV	マナス保健計画技術調整委員会委員長
Dr. M. M. KARATAEV	マナス保健計画技術調整委員会調整官
Ms. D. DJOLDOSHEVA	世界銀行ビシュケク本部執行官

【 民間病院カメク】

Dr. E. MAMATOV	院　長

【 民間救急搬送会社】

Dr. I. B. SHAYAKHMETOV	代表役員

[2] 日本国政府関係者

【 在カザフスタン日本大使館】

館山　彰	参事官
清水　保彦	三等書記官
渡邊　夕子	大使館員
岡本　貴充	大使館員

２．　基本設計概要説明調査

2. 基本設計概要説明調査（平成11年1月10日～1月30日）

(1) 調査団の構成

調査団の氏名、所属

氏　名	担当分野	所　属
松葉　剛	団長・総括	厚生省国立国際医療センター
平井　利奈	計画管理	国際協力事業団無償資金協力調査部
中島　護	業務主任/ 運営維持管理計画	株式会社　日本ﾍﾙｽｹｱｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ
鈴木　誠	機材計画（I）	株式会社　日本ﾍﾙｽｹｱｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ
橋　盛彦	通訳（露語）	株式会社　日本ﾍﾙｽｹｱｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ

(2) 現地調査日程

月　日	調査日程
1月　10日（日）	・コンサル団員成田発→フランクフルト着（JL 407）
11日（月）	・フランクフルト発→アルマティ着（LH 3346）
12日（火）	・在カザフスタン日本大使館を表敬、打ち合わせ ・アルマティ発→ビシュケク着（車による移動） ・保健省打ち合わせ
13日（水）	・外国投資経済援助委員会（GOSCOMINVEST）打ち合わせ ・保健省打ち合わせ
14日（木）	・ビシュケク市救急センター打ち合わせ ・国立外科センター打ち合わせ
15日（金）	・共和国感染症病院打ち合わせ ・市立第3小児病院打ち合わせ
16日（土）	・市立第2産婦人科病院打ち合わせ ・市立第4産婦人科病院打ち合わせ
17日（日）	・官団員成田発→フランクフルト着（JL 407） ・コンサル団員資料整理
18日（月）	・官団員フランクフルト発→タシケント着（LH3346） ・保健省打ち合わせ ・ビシュケク市救急センター打ち合わせ
19日（火）	・官団員タシケント発→アルマティ着（LH3346） ・官団員在カザフスタン日本大使館を表敬 ・官団員アルマティ発→ビシュケク着（車による移動） ・団内打ち合わせ
20日（水）	・保健大臣表敬 ・保健省及び対象施設との協議
21日（木）	・保健省、世銀、WHOとの協議 ・GOSCOMINVESTとの協議
22日（金）	・ミニッツ協議・署名 ・官団員ビシュケク発→アルマティ着（車による移動） ・在カザフスタン日本大使館報告 ・ビシュケク市救急センター打ち合わせ
23日（土）	・官団員アルマティ発→フランクフルト（LH3325)→成田（LH710） ・共和国感染症病院調査 ・国立外科センター調査
24日（日）	・官団員成田着 ・コンサル団員資料整理
25日（月）	・市立第3小児病院調査 ・市立第2産婦人科病院調査
26日（火）	・市立第4産婦人科病院調査 ・保健省打ち合わせ
27日（水）	・保健省打ち合わせ ・GOSCOMINVESTにてTechnical Memorandum 署名
28日（木）	・コンサル団員ビシュケク発→アルマティ着（車による移動） ・在カザフスタン日本大使館報告
29日（金）	・コンサル団員アルマティ発→フランクフルト（LH3325)→成田（LH710）
30日（土）	・コンサル団員成田着

(3) 相手国関係者リスト

〔1〕キルギス国政府関係者

〔外国投資経済援助委員会（ｺﾞｽｺﾑｲﾝﾍﾞｽﾄ）〕

Mr. URKALY. T. ISAEV	長　官
Dr. SABYRBEK A. MOLDOKULOV	副長官
Mr. URAN T. ABDYNASYROV	副長官

〔保　健　省〕

Dr. N. KASIEV	大　臣
Dr. AALIEV G. R.	次　官
Dr. K. MAMBETOV	医療予防局長
Dr. R. JAKYPOVA	医療予防担当課長

〔ビシュケク市救急センター〕

Dr. SHAYAHMETOV I. S.	センター長

〔国立外科センター〕

Dr. K. M. MAMAKEEV	病院長
Dr. KALJIKEEV A. A.	副院長
Dr. OMURZAKOV M. B.	マネージャー

〔共和国感染症病院〕

Dr. N. MURATOVA	院　長
Dr. H. SARKINA	副院長

〔市立第3小児病院〕

Dr. OMURBEKOV T. O.	院　長
Dr. H. CHERNYSHOVA	副院長

〔市立第2産婦人科病院〕

Dr. ALYBAEV A. A.	院　長
Dr. T. KOZLOVA	副院長
Dr. K. LEE	産科部長

〔市立第4産婦人科病院〕

Dr. G. KACHKINTAEVA	院　長
Dr. N. VOICHENKO	副院長

〔世界保健機構キルギス事務所〕

Dr. ALMAZ IMANBAEV	キルギス事務所代表

〔世界銀行ビシュケク本部〕

Mr. KAZUBA M. STEPANOVICH	世銀代表

〔2〕日本国政府関係者

【在カザフスタン日本大使館】

三橋　秀方	特命全権大使
館山　彰	参事官
須田　敦	二等書記官
渡邊　夕子	大使館員
岡本　貴充	大使館員

３．　当該国の社会・経済事情

国名	キルギス
	Republic of Kyrgyz

一般指標

政体	共和制	*1	首都	ビシュケク	*1
元首	President Askar AKAYEV	*1	主要都市名		*1
独立年月日	1991年8月31日	*1	経済活動可人口	2,000千人 (1995年)	*4
人種(部族)構成	ｷﾙｷﾞｽ人52.4%、ﾛｼｱ人、ｳｽﾞﾍﾞｸ人	*1	義務教育年数	10年間 (1997年)	*5
			初等教育就学率	% (年)	*5
言語・公用語	ｷﾙｷﾞｽ語、ﾛｼｱ語	*1	初等教育終了率	% (年)	*6
宗教	回教、ﾛｼｱ正教	*1	識字率	97 % (1995年)	*7
国連加盟	1992年03月	*2	人口密度	23.68人/Km² (1996年)	*1
世銀加盟	1992年09月	*3	人口増加率	0.1 % (1996年)	*1
ＩＭＦ加盟	1995年03月	*3	平均寿命	平均63.86 男59.18 女68.77	*1
面積	198.50千Km²	*1	5歳児未満死亡率	(年)	*7
人口	4,529.648千人(1996年)	*1	カロリー供給量	cal/日/人(年)	*7

経済指標

通貨単位	ソム	*1	貿易量	(1996年)	*8
為替(1US$)	1US$=19.15 (1998年06月)	*8	輸入	838.0百万ﾄﾞﾙ	*8
会計年度	1月～12月	*1	輸出	505.0百万ﾄﾞﾙ	*8
国家予算	(1997年)	*9	輸入カバー率	1.4月 (1996年)	*10
歳入	290.2百万ドル	*9	主要輸出品目	綿、羊毛、肉、ﾀﾊﾞｺ、金、水銀 (1995年)	*1
歳出	373.4百万ドル	*9	主要輸入品目	穀類、木材、工業製品、燃料 (1995年)	*1
国際収支	-19.80百万ドル(1996年)	*9	日本への輸出	0.8百万ﾄﾞﾙ(1997年)	*11
ODA受取額	百万ドル(年)	*7	日本からの輸入	2.5百万ﾄﾞﾙ(1997年)	*11
国内総生産(GDP)	3,028.00百万ドル(1996年)	*4			
一人当たりGNP	700.0ドル (1995年)	*4	外貨準備総額	147.4百万ﾄﾞﾙ(1998年6月)	*8
GDP産業別構成	農業 44.0 % (1995年)	*4	対外債務残高	51.1百万ﾄﾞﾙ(1996年)	*10
	鉱工業 24.0 % (1995年)		対外債務返済率	9.2 % (1996年)	*10
	ｻｰﾋﾞｽ業 32.0 % (1995年)		インフレ率	38.5 % (1995年)	*7
産業別雇用	農業 32.0 % (1990年)	*7			
	鉱工業 27.0 % (1990年)				
	ｻｰﾋﾞｽ業41.0 % (1990年)		国家開発計画		*12
経済成長率	-14.7 % (1995年)	*4			

気象(～ 年平均)　場所：　(標高 m)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均 / 計	
最高気温													℃	*13
最低気温													℃	*13
平均気温													℃	*14
降水量													mm	*13
雨期乾期														

*1 CIA World Fact Book 1997-1998
*2 Member States of United Nations
*3 The World Bank Public Information Center, International Financial Statistics Yearbook 1998
*4 World Development Report 1997
*5 UNESCO Statistical Yearbook 1997
*6 Status and Trends 1997
*7 Human Development Report 1998
*8 International Financial Statistics August 1998
*9 International Financial Statistics Yearbook 1997
*10 Global Development Finance 1998
*11 世界の国一覧表 1998年版
*12 最新世界各国要覧 98年版
*13 The Times Book World Weather Guide, Update Edition
*14 理科年表, 国立天文台(1997)

国名	キルギス
	Republic of Kyrgyz

*15

我が国におけるODAの実績				（資金協力は約束ベース、単位：億円）
項目＼年度	1993	1994	1995	1996
技術協力	2,892.93	3,087.67	3,256.28	3,461.48
無償資金協力	2,244.22	2,456.48	2,796.65	2,606.79
有償資金協力	3,939.97	4,352.21	3,878.11	3,025.02
総額	9,077.12	9,896.36	9,931.04	9,093.29

*15

当該国に対する我が国ODAの実績				
項目＼年度	1993	1994	1995	1996
技術協力	0.78	4.27	4.44	3.96
無償資金協力	0.00	0.49	10.91	13.93
有償資金協力	0.00	39.73	30.45	26.39
総額	0.78	44.49	45.80	44.28

*16

OECD諸国の経済協力実績				（支出純額、単位：百万ドル）	
	贈　与 (1)	有償資金協力 (2)	政府開発援助 (ODA) (1)+(2)=(3)	その他政府資金及び民間資金 (4)	経済協力総額 (3)+(4)
二国間援助	67.20	32.20	99.40		99.40
（主要供与国）					
1.日本	17.90	26.40	44.30		44.30
2.アメリカ	28.00	0.00	28.00		28.00
3.ドイツ	4.70	5.80	10.50		10.50
4.オランダ	8.70	0.00	8.70		8.70
多国間援助	21.50	110.70	132.20		132.20
（主要援助機関）					
1. IDA					
2. IMF					
そ の 他	0.30	0.00	0.30		0.30
合　計	89.00	142.90	231.90		231.90

*17

援助受入れ窓口機関	
技術	
無償	
協力隊	

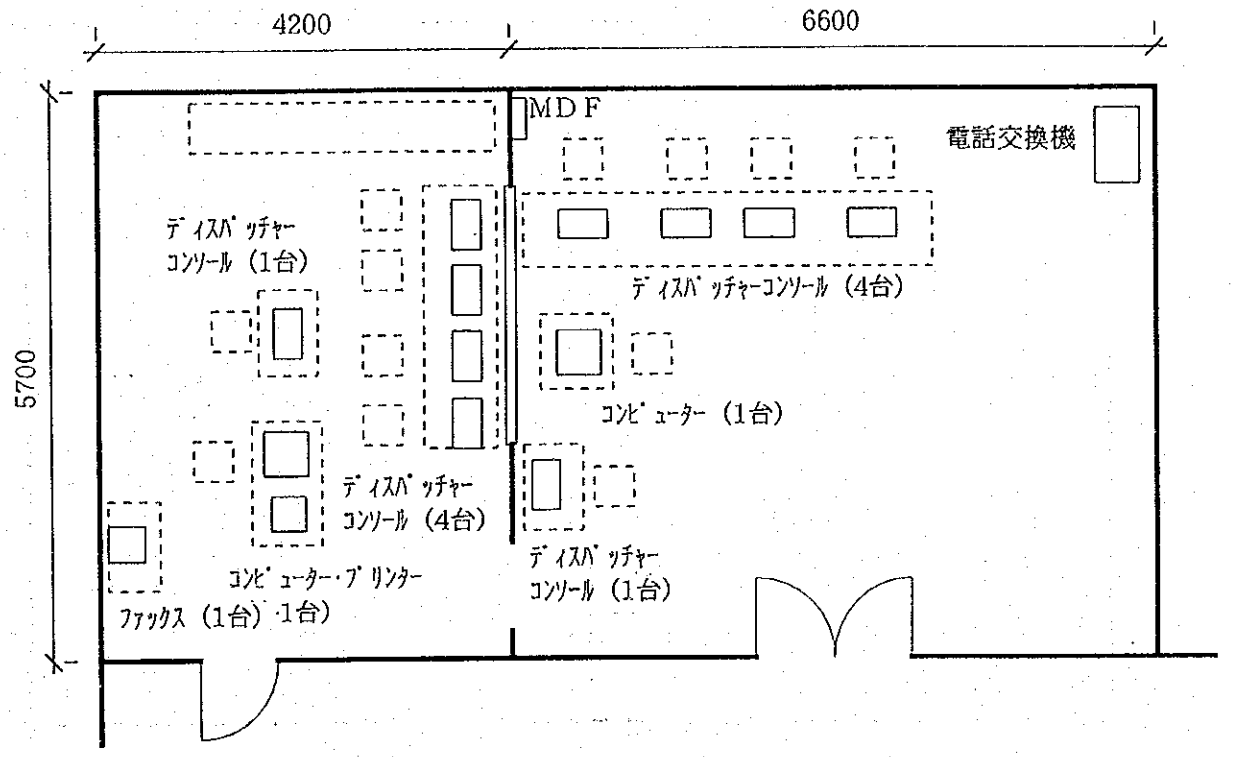
*15 Japan's ODA Annual Report 1997
*16 Geographical Distribution of Financial Flows to Aid Recipients 1992-1996
*17 国別協力情報(JICA)

4.　その他

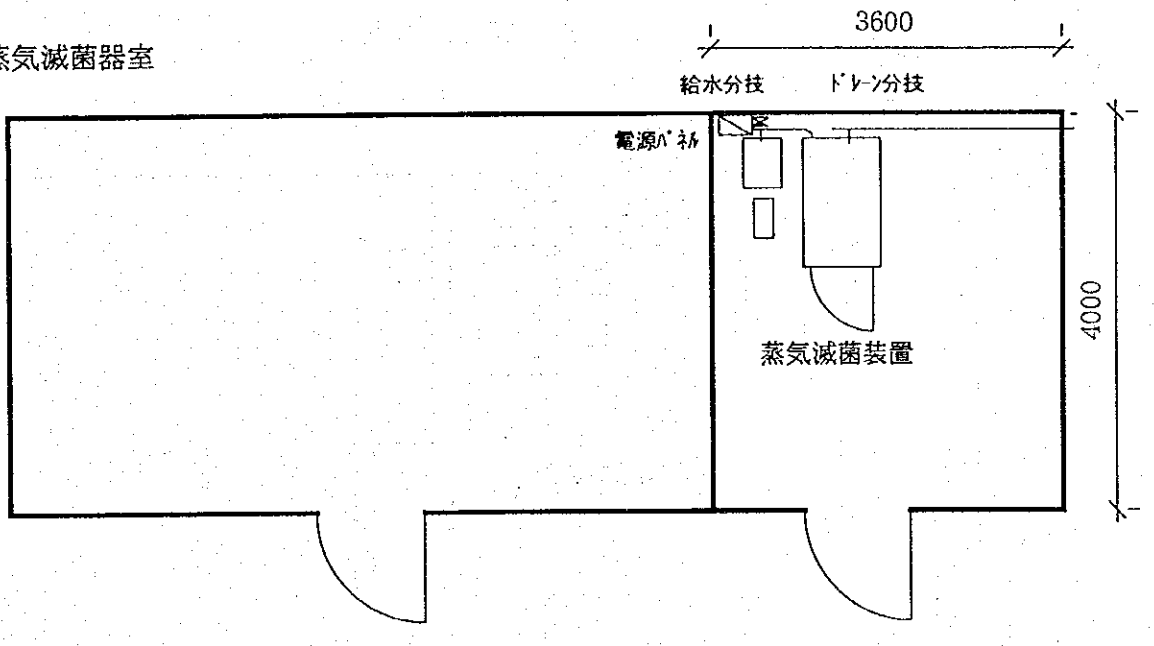
据付機材レイアウト図

1) ビシュケク市救急センター

・無線室

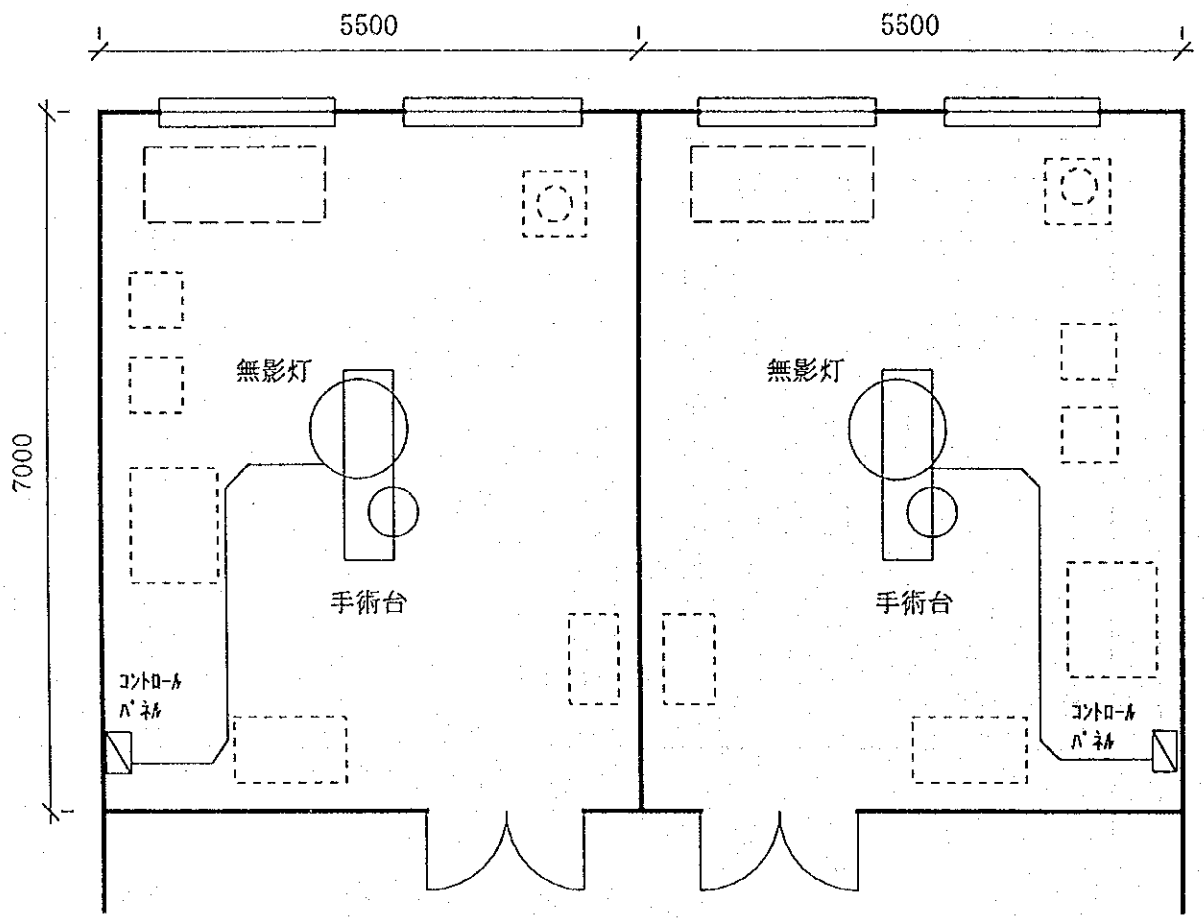


・蒸気滅菌器室



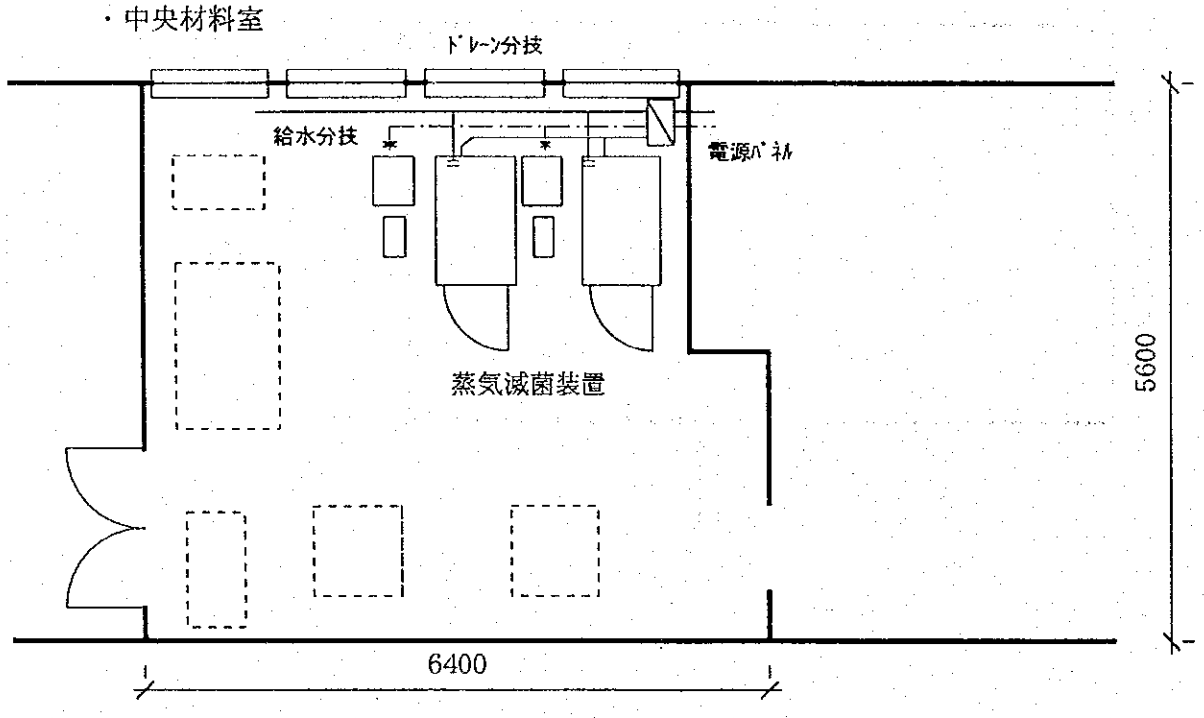
2) 国立外科センター

・手術室



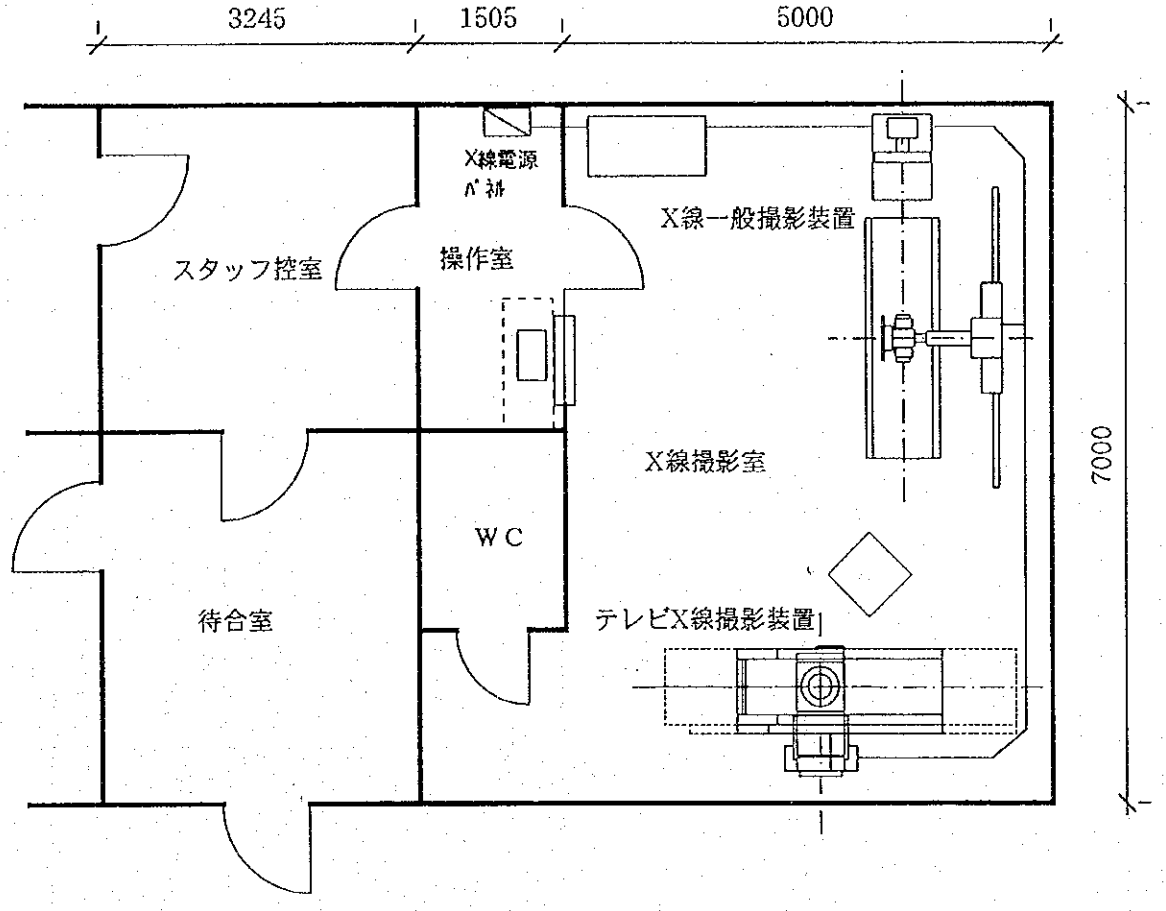
2階、3階、4階レイアウト

・中央材料室

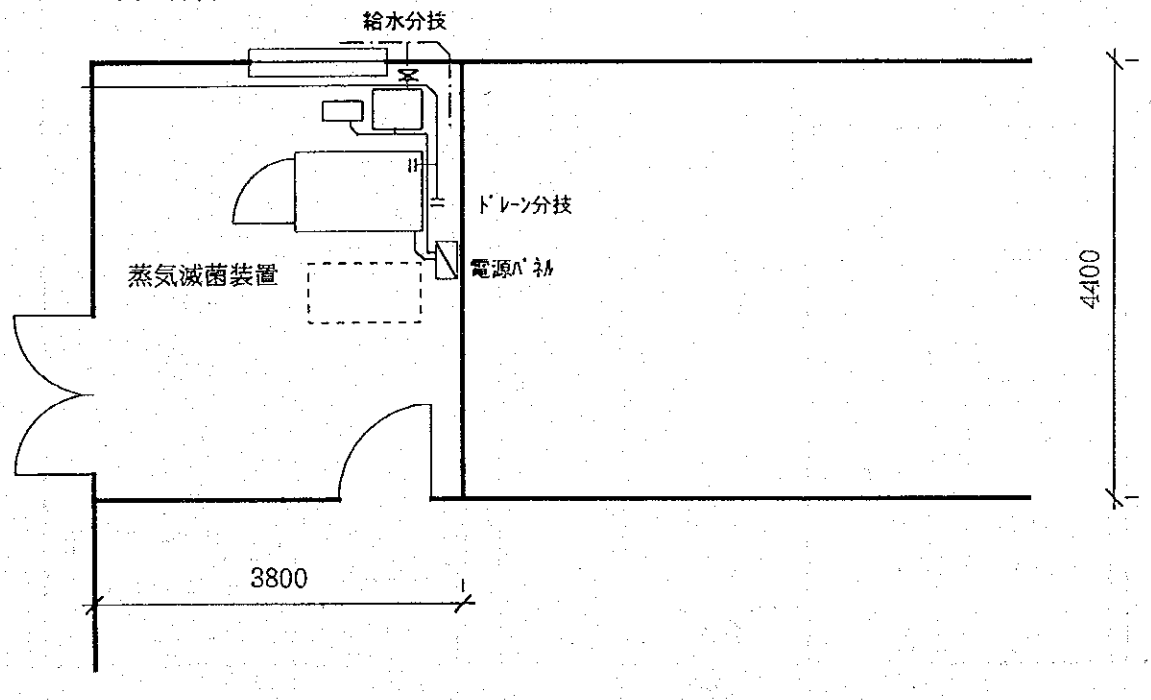


3）市立感染症病院

・放射線室

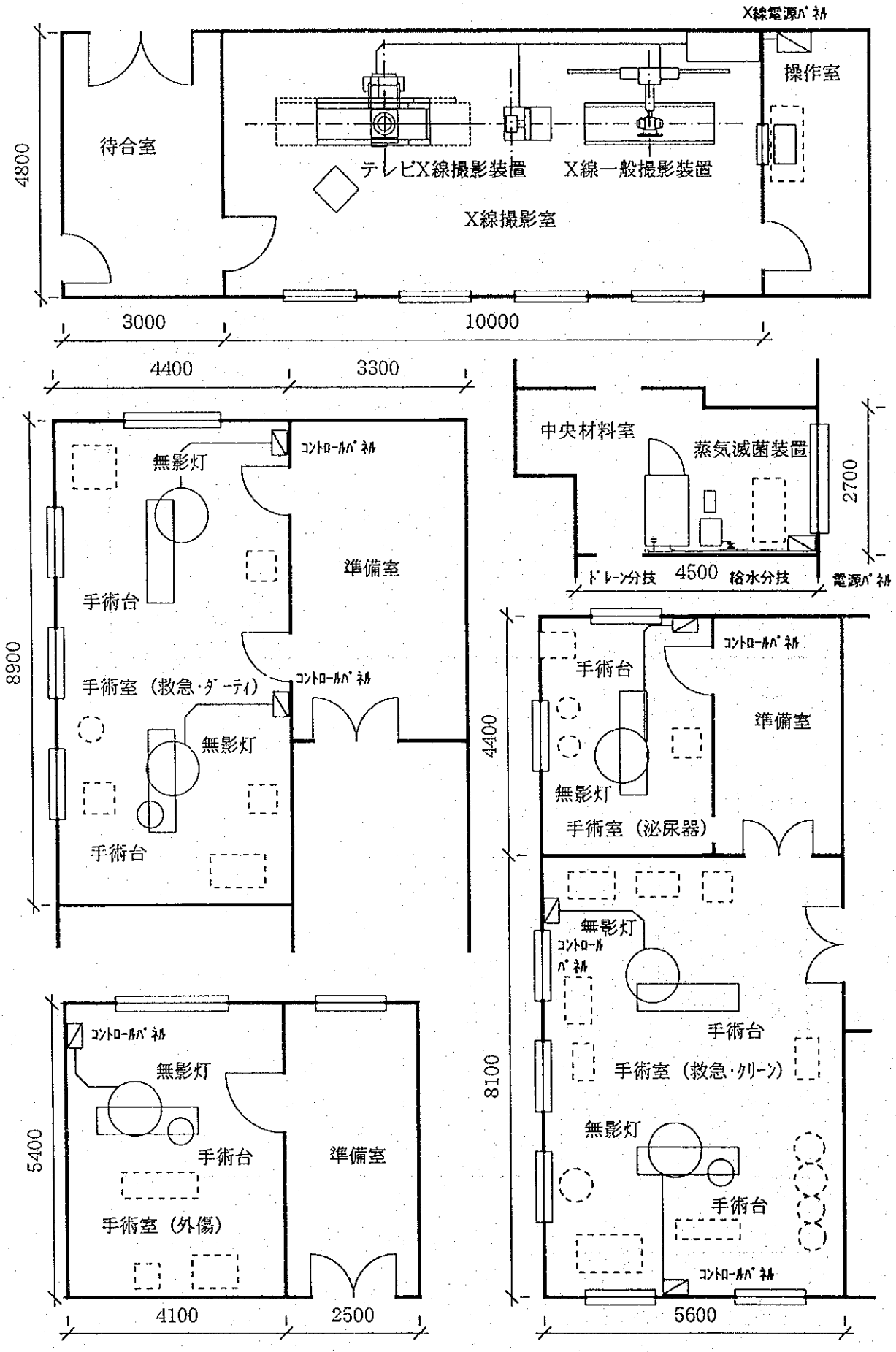


・中央材料室



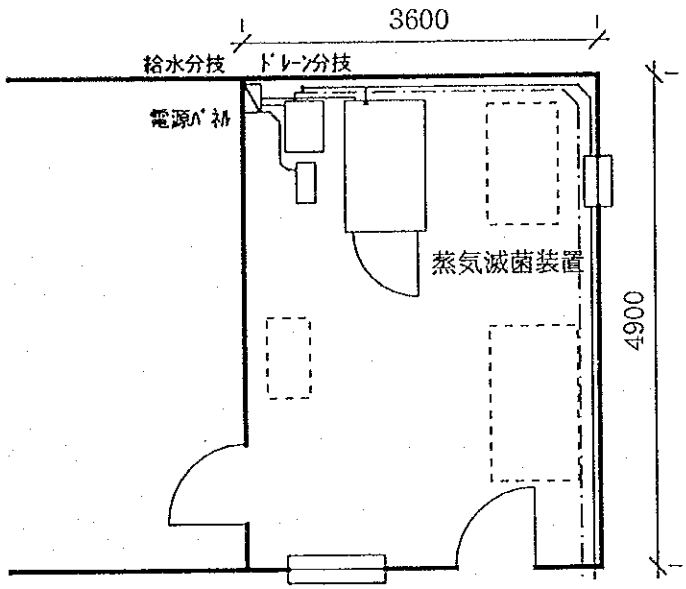
4) 市立第3小児病院

・放射線室



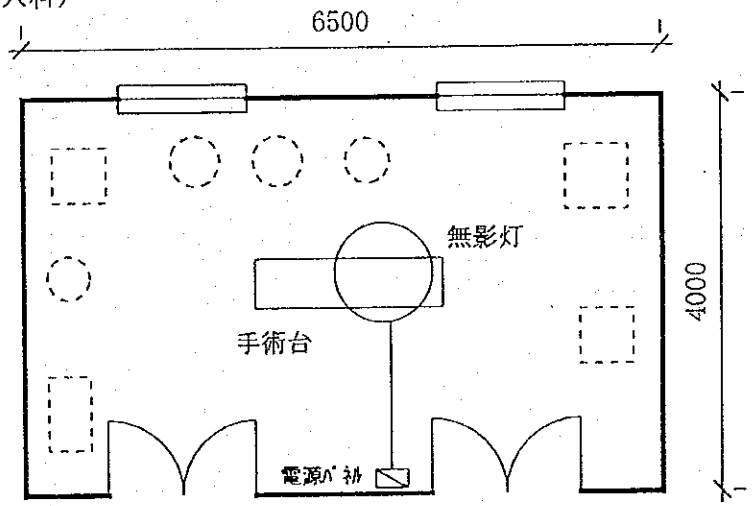
5）市立第2産婦人科病院

・中央材料室

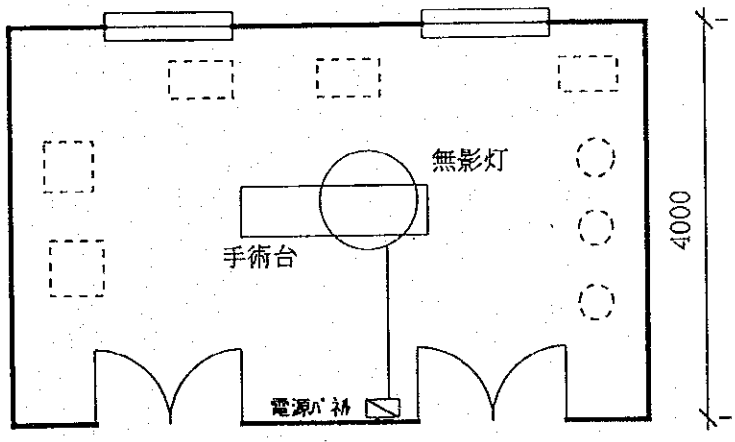


6）市立第4産婦人科病院

・手術室（婦人科）



・手術室（産科）



JICA